

インターバンクの声（2015年12月17日）

「大どんでん返し」もなく、米連邦準備制度理事会（FRB）が9年半ぶりに政策金利の引き上げを決定した。市場が実質的なゼロ金利政策の解除をほぼ織り込んでいただけに、まさかの利上げ見送りにでもなれば、為替市場とともに、引け時間が迫ったニューヨーク株式市場がどのような反応になるのか想像もしたくなかったが、取りあえず第一関門は無事通過した。FRBの利上げの発表、そしてイエレン議長の会見を経てなお上下1円余りの取引値幅しかないおとなしいドル円相場になっているが、本格的な相場変動はこれからが本番だろう。ユーロも1.09ドル台前半と、12月3日の欧州中央銀行（ECB）の追加金融緩和の規模に対する不満から急上昇した後の価格とほとんど変わっていない。豪ドルの0.72ドル台の水準も過去1カ月間の平均水準の価格だ。来週の後半はクリスマス・シーズンに突入するとあって、年内に一相場が来るのであればこの週末を挟んだ数日か年末最終週だろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。